

## 多世代交流ワークショップ「トントンくるくるオシャレにへんしん」

2015年9月12日(土) うらわ美術館 ギャラリーD(視聴覚室)

世代を超えた交流を目的とした「多世代交流ワークショップ」は、今年で7年目となります。おなじみ小池ちかこさん(臨床美術士)を講師に迎え、今回は「衣」をテーマに、フィンガーペイントで描いた布を飾ったり、身にまといファッションショーをしたりするワークショップとしました。タイトルや内容に興味を持ってくださる方が多く、参加定員を大幅に越える応募があったため、抽選を行いました。

集まった参加者は、ほとんどが初対面のため、最初にアイスブレイキングとして、変装グッズを使ったコミュニケーションを図りました。ペアになり、片方が30秒間にどこが変わったのかを相手に当ててもらうことで、参加者は楽しみながら緊張をほぐしていきました。

次に布用フィンガーペイント用絵の具で布に描いていく活動に入りました。ペアで交流しながら、布の4分の1にペアの人の絵が入ることで、お互いに影響を受けたり、与えたりしながら、相手の表現が自分の絵の中に自然と取り込まれていきました。そして、できあがった世界に1枚の布を裂き、テグスに吊ると、その色とりどりの表現に参加者から歓声があがっていました。

最後に布を身にまとうと、嬉しそうにしたり、恥ずかしがったりしながら自分の表現に満足している様子でした。一緒に参加した保護者も記念に写真を撮りながら、楽しく鑑賞をすることができました。(参加者:2回計41名) **脇元重彰(うらわ美術館)**



## ワークショップ「和紙で着物の雛形を作ろう」

2016年1月9日(土) うらわ美術館 ギャラリーA

「縫い—その造形の魅力—」展の関連事業として東京家政大学博物館学芸員の三友晶子さんを講師に迎え、雛形尺という専用の道具を使い、和紙で実際の1/6サイズの着物を作るワークショップ「和紙で着物の雛形を作ろう」を開催しました。こちらも定員を大きく超える応募があり、裁縫雛形への関心の高さが窺えました。

初めに裁縫雛形の歴史についての講義があり、参加者は裁縫雛形への理解を深めながら、より関心を持って制作に入ることができました。次に、長さ2m弱の和紙を、直線裁ちで無駄なく切り分け、実際の

着物と同じ形に貼り合わせていきました。参加者はみな集中して丁寧に作業し、1枚の和紙が少しずつ着物の形に近づいていきました。

完成すると、その可愛らしさに目を細める姿や、できあがりになん得した表情など、満足した様子があちこちに見られました。参加者はこのワークショップを通して、楽しく着物作りの工程を学びながらも、「ものを大切に使う」という日本文化のよさを改めて実感する機会になったのではないのでしょうか。(参加者:19名)

**脇元重彰(うらわ美術館)**



## 美術館が寄席になる! —たまには美術館で思いっきり笑ってみたい— 三遊亭鬼丸師匠による落語とトーク

2015年11月15日(日) 埼玉県立近代美術館 一般展示室

「美術館は静かに芸術作品を鑑賞するところ」、これが世間一般の常識です。それをくつがえす試みはできないか、「そうだ“笑い”、それなら落語。現代アートに囲まれた空間にきっとマッチする」という発想でたちあげた企画です。

師匠は柔らかな黄色の羽織姿でにわか仕立ての高座に上がりました。バックは鮮やかな黄色い抽象画、サイドには立体作品を配置、囃しの枕が終わったあたりで羽織を脱ぐと薄水色の着物姿になる、その演出は見事でした。

参加者を飽きさせることなく1時間、笑いに包まれた展示会場でした。(参加者:150名)



三遊亭鬼丸師匠

**奥野由利(SMF運営委員)**



## 蒼 浩人 踊り公演「天衣無縫」

2015年11月22日(日) 埼玉県立近代美術館 地階センター・ホール



でも吹抜けに吊るした布を印象的に使い、彫像を浮かび上がらせる下からの照明が効果的でした。

プログラムにあった音響やメイクも、パフォーマンスの緩急自在の動きを引き立てていました。ダンスや彫像への着さんの深い思いが伝わる充実した舞台でした。(来場者:68名)

**中村誠(SMF事務局)**

photo:加藤英弘

埼玉県立近代美術館の中央に地下1階から3階に続く八角形の吹き抜けがあります。そこには「枢機卿」「マグダラのマリア」「ダミアン神父」というキリスト教をモチーフとした彫像が設置されています。踊り手・蒼浩人さんがこの荘厳な空間に出会い、三体の彫像と向かい合うことからこの公演が生まれました。枢機卿のゆったりとした法衣や風になびくマリアの衣など、彫像でも衣が重要な役割を担っていますが、本公演

プログラム	
第1場	序 布を身にまとった踊り 放浪者
第2部	破 復活したキリストの回想(ヴェナツォ・クロチェッティ(マグダラのマリア)に)
第3部	急 寄り添いの舞い 聖なる三角形(ジャコモ・マンズー(枢機卿)に)
第2場	序 身を投げる踊り(舟越保武(ダミアン神父像)に)
第2部	破 息抜き
第3部	急 天へ もっと速くに 寄り添いの舞い/エンディング
出演:蒼 浩人/照明:宇野 敦子/音響:遠藤 寿彦/メイク:上野リサ	
写真撮影:加藤 英弘/映像撮影:築添 英士/スチッター:中村由希	

## 通崎睦美 講演会&木琴演奏会—1935をめぐって

2015年11月28日(土) 埼玉県立近代美術館 講堂

今年のテーマ「衣」にあわせて、古い着物のコレクションで知られる通崎睦美さんに講演をお願いしました。通崎さんの本業はマリンバの演奏家。かつて日米で活躍した木琴の巨匠・平岡養一が大事にしていた木琴を譲られ、このところ木琴の復権に力を注いでいます。

譲られた木琴が1935年製のもので、コレクションの着物が作られたのもその頃のもので、「1935」とテーマを設定してお話しされ、あいまに澄んで軽やかな音色の木琴の演奏が会場に響きました。

埼玉出身の画家・須田剋太に、子どもの頃10年にわたって毎年描いてもらっていた肖像画も展示しました。

トークゲストは、企業メセナの推進者として活躍されている加藤種



通崎睦美さん



加藤種男さん

男さん。文化に関わりながら人生を楽しく生きようという励ましに満ちた話をされました。会場には128人の人が訪れ、とても密度の濃い時間・空間を楽しみました。 **渡辺恭伸(SMF運営委員)**